日刊 動労千葉

1988.10.13

No.2906

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六・（公衆）〇四七二（22）七二〇七

「収用法発動」「農地強奪」反対！三里塚二期工事阻止！

大会決定！総結集第一弾！

10・23三里塚へ全力参加しよう

機動隊・国家暴力による土地強奪を許すな！

政府・空港公団は、反対同盟の不屈の闘いに追いつめられ、事業認定の最終的失効が来年十二月に迫るなかで、いよいよ土地収用法適用＝強制代執行による農地強奪に踏みきろうとしています。そのために、年内にも千葉県土地収用委員会の収用審理再開がたくらまれています。土地収用法の発動とは、国家暴力＝機動隊とブルドーザーによって、そこに生き生活する農民をたたき出し、血のにじむような苦労を重ねて育て上げた農地を強奪すること以外のなにものでもありません。

また、騒音対策特別措置法によって、芝山町をはじめ、空港周辺二千戸の追い出し攻撃がかけられようとしています。「国家のため」「国策のため」であれば、すべてが許されるという発想は、戦時徴発を思いおこさせるものです。収用法・騒特法発動は、まさに有事立法の先取り攻撃でもあります。

収用法発動賛成はたった「5%」多くの人々が反対

しかし、この間総理府が、土地強制収用を正当化するためにおこなった調査でも、結局収用法発動に積極的に賛成する者がたった五%、はっきり反対と答えた者が半数近く、という結果に終ったことを見ても明らかなとおり、この攻撃が、国家権力への広はんな怒りをまきおこすことは確実です。われわれはこの結果からも、反対同盟農民の不屈の闘いに連帯し、労働者人民の怒りを結集し、その力に依拠して闘う限り、闘いは必ず勝利することに確信をもつことができます。

労農連帯をより強固に！

三里塚二十二年間の「不屈・非妥協・実力闘争」は、国家権力と真向から対決する、他に代えがたい労働者人民の闘いの砦です。また、日帝の戦争政策を阻止する最強の拠点です。動労千葉もこの労農連帯の闘いのなかで、困難な状況を突き破り現在までの前進をかちとる力をつくりあげることができたことは、まぎれもない事実です。

三里塚が圧殺されたとき、反動の嵐はより激しくわれわれを襲うようになるでしょう。われわれは、今こそ、労農連帯の力を発揮し、重大な局面をむかえた三里塚闘争の勝利のために全力を尽くさなければなりません。

当面する十・二三　三里塚現地総決起集会への総力決起を軸に、反対同盟の呼びかける土地収用法粉砕署名運動を展開し、二期工事強行・農地強奪を阻止しよう。

土地収用法発動＝農地強奪を許すな

10・23三里塚へ！

10月23日(日)

三里塚全国総決起集会

集合 成田 10時

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉砕せよ！